

ものづくりの魅力に触れる

美術文化学部でミニオープンキャンパス

金沢学院大学美術文化学部のミニオープンキャンパスは9月19日、6号館などで行われ、美術・芸術系の学部学科を志望する高校生が実習を中心とした多彩なオープン授業を通じて、ものづくりの魅力に触れました。同学部が独自にオープンキャンパスを開くのは昨年に続いて2回目。この日は大学・短期大学の進学相談会も併せて行われており、約20人が参加しました。

このうち日本画コースでは、小木曾登講師が2人の生徒に絵の具の種類などを説明しました。



日本画コースのオープン授業 = 6号館

個別面談で教員に相談する父母ら = 5号館



就職支援など熱心に

金沢学院大学経営情報学部の保護者懇談会は9月19日、4号館講堂などを会場に開かれ、73人の学生の父母らが、昨年秋季の厳しい就職環境を改めて認識し、本学の就職支援活動などに理解を深めました。

従来、3、4年生を対象に開いていた懇談を初めて全学年に広げて開催しました。中西一夫学部長が「経営情報学部では教育プログラムの改良など学生の満足度を上げる努力をしている」と挨拶し、島崎外志夫就職支援センター部長が「就職活

経営情報学部で保護者懇

動はまず準備が大切である」と強調しました。5号館食堂で行われた

自分で考える力を 山口香氏が講演で強調

経営情報学部公開講座

金沢学院大学経営情報学部の公開講座は9月19日、4号館講堂で開かれ、ソウル五輪の柔道銅メダリストで筑波大学大学院人間総合科学研究科



個別面談では、単位取得の状況など具体的な相談が相次ぎました。

同懇談会は9月26日に富山市の名鉄トヤマホテルでも行われました。

山口香准教授「写真上の「肌で感じたスポー国際文化事情」のテーマで講演しました。

山口准教授は豊富な国際試合の経験をもとに「日本の選手は、形（基本）は十分だが、自分で考えることができるよう鍛えなければならぬ」と述べ、「競り合いの中で勝ち抜く精神力が不足している」と指摘しました。

金沢学院短期大学の粟津原理准教授は8月28日、京都で開催された日本調理科学会で、奨励賞を受賞しました。

同会の奨励賞は、選考を経て40歳までの研究者1人に毎年贈られるもので、研究者としての将来性にも期待が込められた栄誉です。

対象となったのは博士号を取得した研

粟津原准教授に調理科学会奨励賞



奨励賞を授与される粟津原准教授（左） = 京都

究でもある「ソバ食品の機能性変化に及ぼすルチン・タンパク質相互作用の影響」で、来年度の会誌に研究論文を発表します。

東高で着付け教室始まる

金沢学院東高の着付け教室は9月14日、和室・書道室で5回コースが始まり、進学総合コース3年生がまず浴衣の着方を学びました。和装の基本を学ぶことで礼作法も身に付けようという今年初めて行われました。講師は百美流加賀百万石百美会の中村桂子総師範らで、きものは中村総師範が同校に寄付した。初日は浴衣の着付けを学び、生徒は自分のサイズに合わせて柄を選んだあと、前合わせ、帯の締め方などに四苦八苦しながら取り組みました。写真有。

10月17、18日清鐘祭

金沢学院大学・短期大学の学園祭「清鐘祭」は10月17日、18日にキャンパス内で行われます。今年のテーマは「新型学園祭」スマイル・フアクトリー」で、お笑い芸人を招いてのライブをはじめ、文化クラブの発表、地元末町のひよひよ太鼓、アマバンド演奏などを予定しています。